



# 陽 心

## 教育目標 自主 健康 奉仕

東陽中学校区の小中学校では、毎月の14日を「トーヨーの日」として『家族団らんの日』を推進しています。11月は14日(金)です。



### 今月の花

グニユーカリ、  
グラジオラス、  
スプレーカーネーション

東陽中学校学校だより 文責:竹田昌彦



秋の深まりとともに、生徒の表情にも落ち着きと自信が見られるようになってきました。合唱コンクールや若あゆ祭など、仲間と協力しながら取り組む行事を通して、生徒は「思いやり」「挑戦」「達成感」を体験しています。本校では「自主（自ら考え進んで行う）」「健康（たくましい体）」「奉仕（感謝の心で奉仕）」の育成を教育の柱としています。11月はその実践が形となって表れる時期です。保護者の皆様、地域の皆様とともに、生徒の成長を見守っていきたいと思います。

**県新人大会（10/4～）** 地区大会を勝ち抜いた各部が出場し、練習の成果を発揮しました。陸上競技では、1年男子が100mで見事第1位となりました。1年女子走り幅跳びで第3位。ハンドボール部は決勝戦で敗れ惜しくも準優勝。男子バレーは第5位、女子は2回戦惜敗です。剣道部は女子団体戦で堂々の第3位。個人戦でベスト16に2名が入賞しました。バドミントン女子団体はベスト8、個人戦ダブルスはベスト16に1ペア。水泳では1年男子が200m平泳ぎで第8位でした。それぞれの部が健闘し、今後の活躍が期待されます。

### 下都賀地区駅伝大会 女子チーム 第3位！ 県駅伝大会へ 10/21(火)

栃木市運動公園陸上競技場で下都賀地区中学校駅伝競走大会が開催されました。女子が第3位で昨年度に引き続き県大会出場を決めました。男子も大健闘でした。女子チームは第1走者からアンカーまで3位をキープして入賞しました。第2走者が区間賞の大健闘でした。女子チームは11月8日(土)に那須野が原公園で開催される県駅伝大会に出場します。御声援をよろしくお願いします。

### 感動！合唱コンクール「百歌繚乱～響き合う 絆の旋律～」 10/22(水)

運動会の熱気が冷めやらぬ9月。まだ残暑の残る校舎に、次第に歌声が響き始めました。あっという間に時は流れ、10月22日、待ちに待った合唱コンクール本番を迎えました。

今年のスローガンは「百歌繚乱～響き合う 絆の旋律～」。その言葉の通り、各クラスが限られた時間の中で心を一つにし、歌声を重ねてきました。実行委員、パートリーダー、指揮者、伴奏者を中心に、全員が真剣に取り組み、クラスの想いを一曲に込めて練習に励みました。運動会後の短い準備期間にもかかわらず、全学年素晴らしい合唱を披露しました。

・1年生は、中学校生活初の合唱コンクールとは思えないほど堂々とした歌声で、初々しさと可能性を感じさせてくれました。



・2年生は、昨年度からの成長がはっきりと伝わり、深みのあるハーモニーで聴衆の心を打ちました。

・3年生は、圧巻の歌声でした。中学校生活の集大成として、圧倒的な表現力と一体感で会場を魅了しました。

全校生徒が一丸となって創り上げたこの合唱コンクールは、まさに「絆の旋律」が響き合う、心揺さぶる一日となりました。それぞれの歌声が重なり合い、校舎に響いたその瞬間、確かに“百の歌が織りなす繚乱の世界”がそこにありました。

## 若あゆ祭 10/22(水)

「飛躍～想像を超えろ 私たちの可能性～」 今年度の若あゆ祭は、生徒一人ひとりの情熱と創造力が光る、まさに「飛躍」の瞬間が随所に見られる文化祭となりました。

○発表の部 第1部 第1部では、「少年の主張」「英語スピーチ」「広島派遣報告」に加え、各種講座紹介の動画、そしてブラスバンド部による演奏が披露されました。本校の代表として発表した生徒たちは、これまでの経験を生かし、堂々とした姿勢で自らの思いを力強く語りました。ブラスバンド部は、合奏に加えてダンスを取り入れた3曲を披露し、会場を熱気で包み込みました。講座紹介動画では、



装飾・ものづくり・プログラミング・手芸・文芸・書道・探究・科学実験の8講座が、それぞれの制作意図や工夫のポイント動画で分かりやすく紹介されました。各講座の特色を生かした映像は、午後の作品鑑賞への期待を大いに高めました。

○午後の作品鑑賞・演劇鑑賞 午後のはじめには、体育館ステージでの演劇鑑賞と、各教室や体育館に展示された8講座の作品鑑賞が行われました。また、階段アートは校内の各階段に展

示され、空間全体が芸術の舞台へと変貌しました。生徒たちは、日頃の授業では得られない学びを通して、特別な思いを込めた作品を創り上げ、自分自身の新たな可能性を発見する貴重な機会となりました。

○発表の部 第2部 第2部では、音楽・和太鼓・ダンスの3講座が、それぞれの練習の成果を舞台上で披露。圧巻のパフォーマンスは、観客の心を揺さぶり、会場全体が一体となって盛り上がる瞬間を生み出しました。



今年度の若あゆ祭は、「想像を超えろ」というテーマのもと、生徒が自らの限界に挑戦し、仲間とともに創造の喜びを分かち合う場となりました。発表・展示・鑑賞のすべてにおいて、生徒の主体性と協働の力が発揮され、学校全体が一つの大きな舞台となった1日でした。この経験が、今後の学びや人生においても大きな糧となることを願っています。